

いけだ駅前未来について、みんなで考えてみた件。

いけだまちづくり

未完成 ビジョン

ビジョン編



いけだ駅前 未来ビジョン Vol.0

あなたと一緒に、未来ビジョンを作りあげてみませんか。

著=いけだエリアプラットフォーム

いけだ駅前で「官民連携」での 「まちなか再生」が、いま必要な理由



今後のまちづくりの 方向性は「居心地が良く 歩きたくなるまちなか」

昨今、ライフスタイルの多様化や人生100年時代の到来などの環境変化が進むなかで、一人ひとりの暮らし方やまちとの関わり方が様々に変化しています。そのため、今後のまちづくりの方向性として、まちなかに「多様性を認め合うゆるやかなつながり」や「コミュニティ」、「サードプレイス」を形成することが不可欠になり、「居心地が良く、歩きたくなるまちなか」を創出することが重要であるとされています。

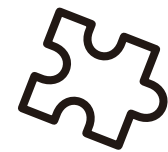
便利で快適で暮らしやすい魅力的ないけだ駅前を、より良くしたい

阪急大阪梅田駅から池田駅までは約20分、池田駅周辺は、五月山や猪名川といった自然環境も身近で、五月山動物園やカップヌードルミュージアム大阪池田をはじめ小林一三記念館や池田城跡公園といった歴史文化施設、商店街やまちなかにも個性的なお店が点在し、とても魅力的なエリアです。駅周辺をより良い空間にしていくためには、先に示したまちづくりの方向性などを踏まえ、駅前空間やまちなかに点在する資源とその周辺の公共空間等を

有効活用し、上手く連携させながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」へとアップデートしていく必要があります。

公共空間等の利活用 「まちなか再生」で 賑わい創出

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出するためのひとつの手法が「まちなか再生」です。官民が一体となり、ゆとりある歩行者空間や居心地の良い滞在空間として公共空間等を有効活用することで、色んな人が集まってくる場所ができ、まちなかに賑わいを創出します。その賑わいが人々の交流を



促進し、イノベーションの創出や地域課題解決、民間投資等の良い循環を生み出します。

いけだ方式 「官民連携まちなか再生」

いままでの行政主導のまちづくりでは、イベントや施設整備を行っても担い手がいない、活動が継続できないという課題がありました。そこで、自立・自走のシステム構築に重点をおいたのが、今回の「官民連携まちなか再生推進事業」の特徴といえます。

地方自治体の予算には限りがあります。今までのように「整備」のプロセス

だけに市民が参加するのではなく、「運営」にも市民が参加しなければ、私達のまちを自分達で守ることができません。まちの再生活動を持続するために、人材を集め、議論・行動し、また人材を集め議論行動し、というプロセスを何度も繰り返しながら、活動を継続させる必要があります。

池田市での「官民連携まちなか再生推進事業」にあたっては、特に次の2点を重視した「いけだ方式」で事業を推進します。

- ① 市民が中心になって活発に活動し、それを行政がそっと後支えする官民連携型での事業の実施。
- ② 社会実験とビジョンの作成を繰り返し、持続する組織の構築と地域人材を育成する「プロセス重視型事業」の実施。

この「未来ビジョン」は、活動のプロセスの中で今後何回も更新していく予定です。社会実験やイベントなど、たくさんの参加の機会を作っていきますので、ぜひご参加ください。

目次



ビジョン編

いけだ駅前で「官民連携」での「まちなかの再生」が、いま必要な理由 巻頭言 01

なんで「未完成」ビジョンなん？ 05

より良い未来を想像し、日々進化していくビジョンだから 07

一人ひとりの未来ビジョンが重なり大きな「いけだ駅前の将来像」ができあがる 08

本冊子の使い方は？ 09

対象エリアについて 11

各エリアの現状と課題 詳細説明 13

駅前を、アイデアでいっぱいにする「いけだ駅前プロジェクト」はじめました 15

いけだ駅前活性化プロジェクトとは 17

プロジェクトミーティング 18

見えてきた！いけだ駅前の魅力と課題 19

イベント=活性化？ 日常の賑わいづくりにつなげるヒント コラム 20

使い方・楽しみ方を考えたら、個性的な企画が誕生しました！ 21

社会実験でまちの姿とポテンシャルを確かめてみた 23

「こんな風に使ってみたい」「使ってほしい」みんなで立てた仮説を検証 25

社会実験で実感したメンバーの声 33

図と数字で見る社会実験 詳細説明 35

みんなで考えた将来像はコレだ！ 37

導き出した将来像 39

将来、いけだ駅前はこんなふうになったらいいな 41

将来像を実現するためのまちづくりの進め方 43

4つの空間の使いこなしイメージ 45

それって、どうやって実現させるの？ 55

いけだ駅前がもっと魅力的になるロードマップ 57

まちを測る指標・定量目標 59

公共空間は「みんなのもの」であり「わたしのもの」でもある コラム 60

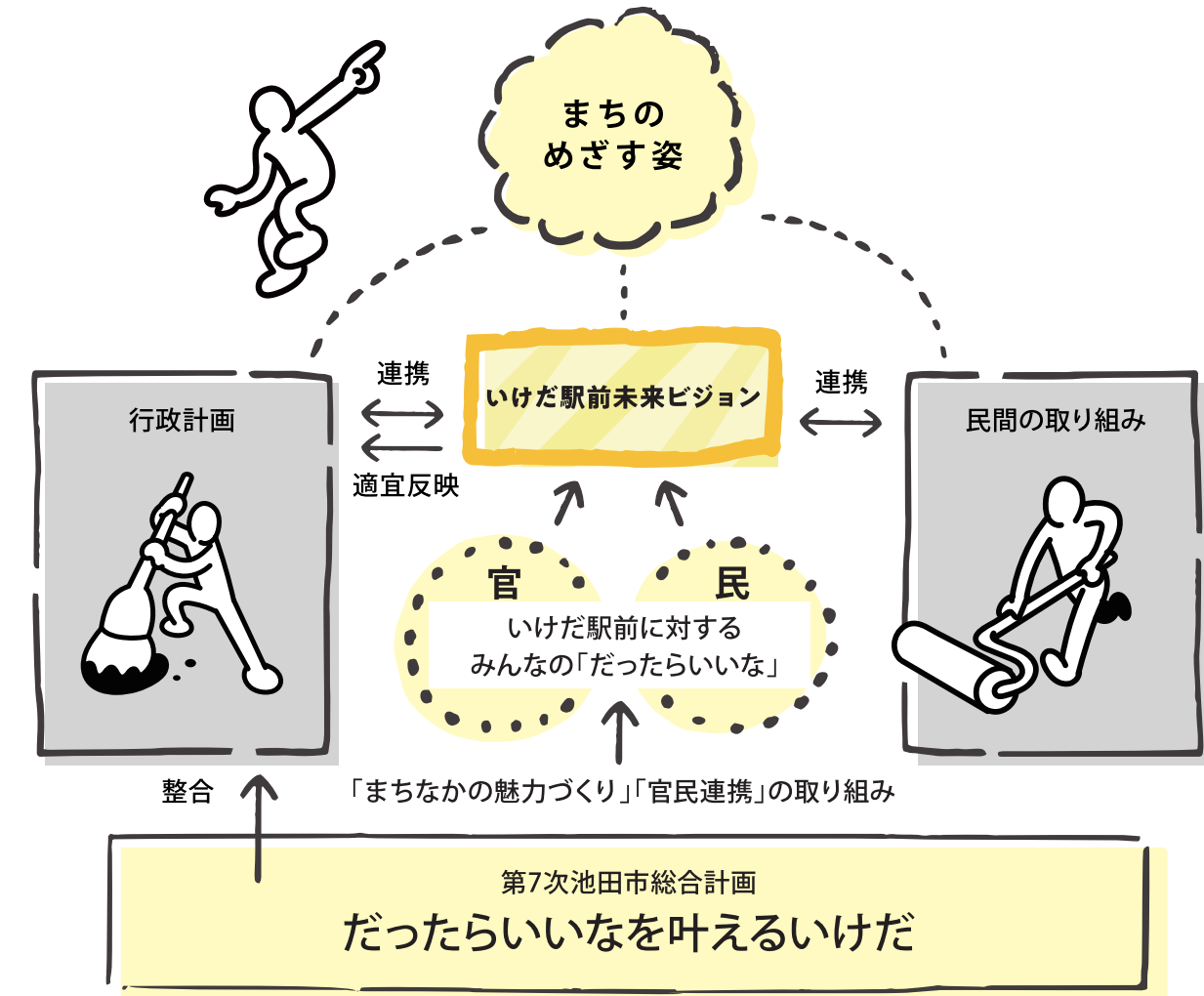
推進体制 61

行政内の横連携 63

活性化を進めていくための基本的な考え方 コラム 65

「まちなかユーザー」にあなたもなってみませんか？ 67

いけだ駅前未来ビジョンの位置付け



いけだまちづくり
「未完成」ビジョン

why

なんで

「未完成」ビジョンなん？



unfinished?

より良い未来を想像し、 日々進化していくビジョンだから

わたしたちはこのビジョンを、「みんなで使い続けながら日々進化していくビジョン」にしたいと思っています。

「わたしたち」とは、市民、地元の事業者や店主、学生、行政職員、インフラを担う大規模事業者、公共施設の指定管理者、まち会社やNPOなどの有志で構成する「いけだエリアプラットフォーム」のことです。このビジョン実現のために、一体となって取り組む人たちの集まりです。

わたしたちは、1年半にわたり、先進事例の見学をしたり調査をしたりしながらディスカッションを重ね、成果をこの冊子にまとめました。多くの人たちが関わったものですが、それでも参加した人数で言えば70人ほど、池田市民の0.1%にも満たない数です。だから、「未完成」というタイトルに思いを込めて、より多くの方に関わって頂き、使い続けながら進化させていきたいと考えています。

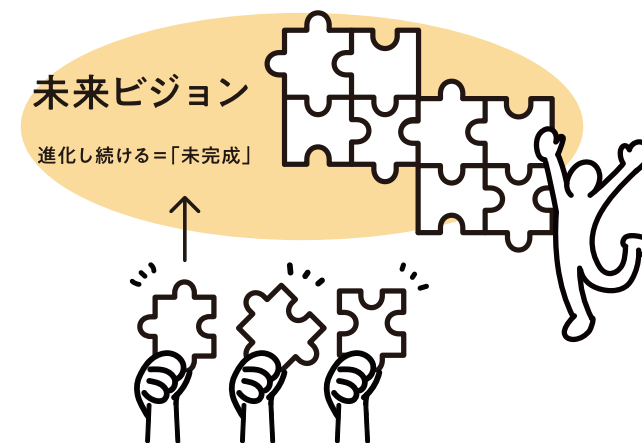
一人ひとりの未来ビジョンが重なり 大きな「いけだ駅前の将来像」ができあがる

この「未来ビジョン」には、

- 1 現時点でみんなが目指す「いけだ駅前の将来像」を示す
- 2 冊子完成後も、新たな市民がビジョンの作成に参加できるプロセスを残す
- 3 まちづくりの進歩にあわせ、常に更新され進化するビジョンを作る

という3つの役割があります。市民が中心になり、それを行政がバックアップしているからこそできる池田のチャレンジ。

まちづくりには目標があっても終わりはなく、市民みんなの想いを紡ぎながら活動するプロセスそのものがまちづくりなのだ、そんな思いを込めて、この冊子をいけだのまちづくりのはじめの一步、「未完成ビジョン」と名付けました。



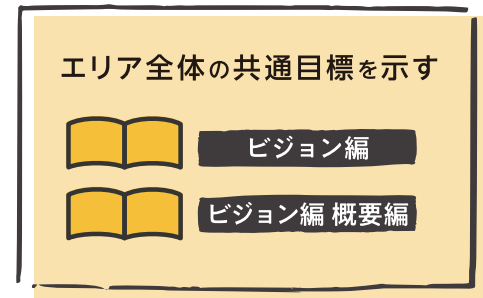
本冊子の使い方は？

本冊子は、エリア全体の共通の目標を示す「ビジョン編」と、あなたの夢を叶えるための「アイデア・メイキング編」とに分かれています。

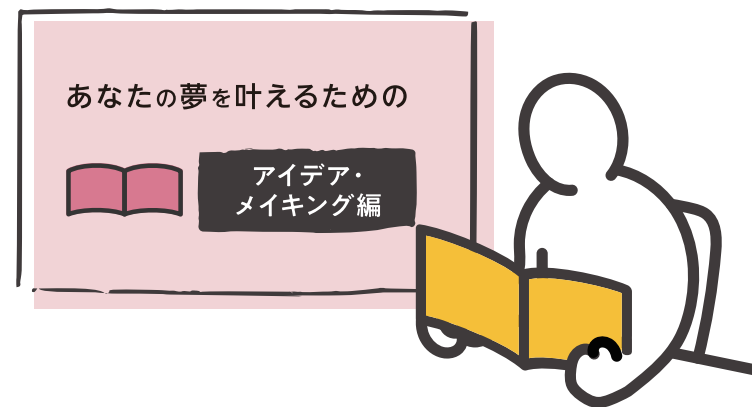
誰でも気軽にエリプラへ参加してもらいたい、という思いから、ビジョン編はエリプラのこれまでの取組みを追体験してもらえらる報告書的な構成に、アイデア・メイキング編は一人ひとりの想いや夢を書き込めるワークブックにしました。

いまこの冊子を手にとっているあなたの想いや夢をぜひ共有してください。

一人ひとりの「アイデア」を共通の「ビジョン」に反映させていきたいと考えています。



ビジョン編を踏まえて検討 ↓ ↑ みんなの意見をビジョン編に反映



さあ、いっしょにまちづくりを始めましょう！



構成	対応する目次	メンバー構成
冊子の説明	なんで「未完成」ビジョンなん？	
↓		
エリアの基本的事項	対象エリアについて 各エリアの現状と課題	
↓		
仮説の立案 机上検討	駅前をアイデアでいっぱいにする「いけだ駅前活性化プロジェクト」はじめました	いけだ駅前活性化プロジェクト
↓		
検証結果 (社会実験)	社会実験でまちのポテンシャルを確かめてみた	プレイヤーや来街者など関係者が増える
↓		
共通の将来イメージ (ビジョン)	みんなで考えた将来像はコレだ！	
↓		
実現に向けて (ロードマップ) (推進体制)	それって、どうやって実現させるの？	いけだエリアプラットフォームへ



構成	対応する目次	あなたの状態
冊子の説明	わたしのアイデア どうするん？	
↓		
アイデア・メイキング (書き込み式)	いけだ駅前と自分を知って アイデアを組み立てよう	あなたが考えてみる
↓		
	お気に入りの場所をもっと好きになるには？ アイデアを企画にしよう	仲間を意識してみる
↓		
	企画をブラッシュアップしよう！	相談や共有を試みる
↓		
実現に向けて	エリプラに参加して あなたのプロジェクトを実現しよう！	参加してみる

対象エリアについて

歩いて楽しめる半径1km圏内を「いけだ駅前」と考えてみる

市の玄関口となる阪急池田駅と、それに交差する形で市を南北に貫くメインストリート・さくら通り。五月山動物園から阪急池田駅、そしてカップヌードルミュージアム大阪池田あたりまでを、広い範囲で「駅前」と捉えてみましょう。

この「駅前」を、もっと居心地が良く、歩きたくなる「まちなか」にするためのプロジェクトです。



五月山への急勾配を考慮した、回遊したくなる工夫を

わたしたち自慢の雄大な五月山の自然は、駅から歩いて行ける距離にあります。しかし、いけだ駅前の回遊を阻むのは本町通り以北の急勾配。駅と各ポイントとの繋ぎ方にも留意して考えていきます。



各エリアの現状と課題



駅前道路空間や広場

せせらぎモール

歩行者と自転車が入り交じる空間になっています。ベンチ等は少なく、通行量と比べて、待ち合わせや飲食等で滞在している人はほとんど見かけられません。周辺には、ブランマルシェやサンシティといった商業施設が面していますが、一体感を持つムード作りには至っていません。修景施設として整備された経緯がありますが、今後はニーズにあわせた形へのアップデートが求められます。

てるてる広場

ステージや備品、電源が整った駅前のオープンスペース。待ち合わせや休憩などの用途のほか、イベントやセレ

モニーの場としても利用されていますが、周囲の商業施設とは国道や鉄道で分断されていて、一体感に欠ける面があります。

池田市道阪急南線

ダイエー前から観光案内所の車道で人の空間が途切れています。道路施設の老朽化も進み、安全な通行や景観面で課題があります。

都市公園

五月山動物園

入場無料の市営動物園として親しまれ、ウォンバット人気により多くの観光客が訪れています。快適に滞在し周辺を

回遊するきっかけづくりが必要です。

都市緑化植物園(緑のセンター)

入場無料の植物園と芝生広場があり、自動販売機等があることからハイカーを含め来園者数が多い。五月山動物園との往来や横移動は少なく、五月山一帯のブランド化が必要です。

池田城跡公園

本格的な茶室や展望休憩舎を有する公園。6月の白百合や、日本庭園風の園内は人気ですが、目的のないぶらり歩きコースにはなりにくい状況にあります。

池田駅前公園

駅から徒歩3分の好立地。駅からの視認性が低く、来街者には公園の



認知度が低くなりがちです。広いグラウンド(平場)を活かした、使い方を検討していく必要があります。

ストリート・商業集積

さくら通り

大阪府の「アドプト・ロード」に参加。個性的で魅力的な個店が点在しており、古民家等をリノベーションした新しいカフェや雑貨屋、本屋なども見受けられます。

ポケットパーク

さくら通りの一部を市が整備したもので、立地的には、駅から五月山までの中間地点に位置し、「さくら通り」と「本町通り」との接点にあります。山側は急斜面になるため、観光案内や休憩スペースなど、行動をサポートする機能などが必要です。また、今後の活用が検討されているコ

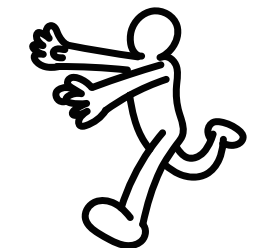
ミュニティセンター跡地と一体的な活用が求められます。

サカエマチ商店街

昔ながらの商店と新規参入の店舗が融合し、市民の生活を支えています。学生団体「関関COLORS」が地域活性化のサポート役として活動しています。

駅前商業施設

ブランマルシェ、サンシティ、ダイエーや、駅から市役所までの動線にあるステーションN、伏尾台行きバス停のあった池田阪急ビル(建て替え中)といった商業施設が集積。方向性や足並みを揃えた事業展開が求められます。



いけだまちづくり
「未完成」ビジョン



駅前をアイデアでいっ

「いけだ駅前活性化プ

start

ぱいにする

プロジェクト」はじめました

a project

いけだ駅前活性化プロジェクトとは

暮らすひとを想いながら 未来を描き、まちを共創しよう。

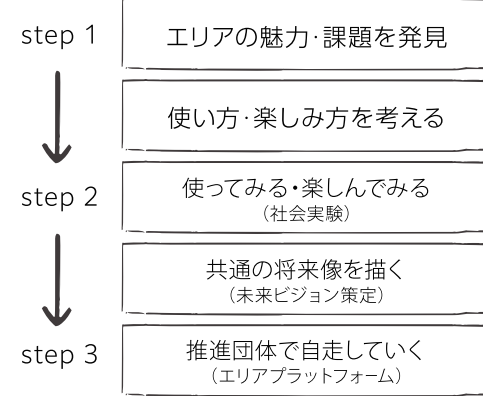
みなさんの活動や歴史ある資源を繋ぎ、いけだに暮らす人・働く人が新しいチャレンジをしながら、歩いて楽しい「いけだ駅前」をつくっていくため、2021年10月、「いけだ駅前活性化プロジェクト」が立ち上がりました。

プロジェクトには、市民活動を通じてまちと関わりを持っていた市民や、駅前商業施設、商店街、店舗の方々、公園等を管理している指定管理者の方々、また、公募を見て参加された学生・市民・事業者など、70人を超えるメンバーが集まりました。

プロジェクトロゴとメンバーのみなさん

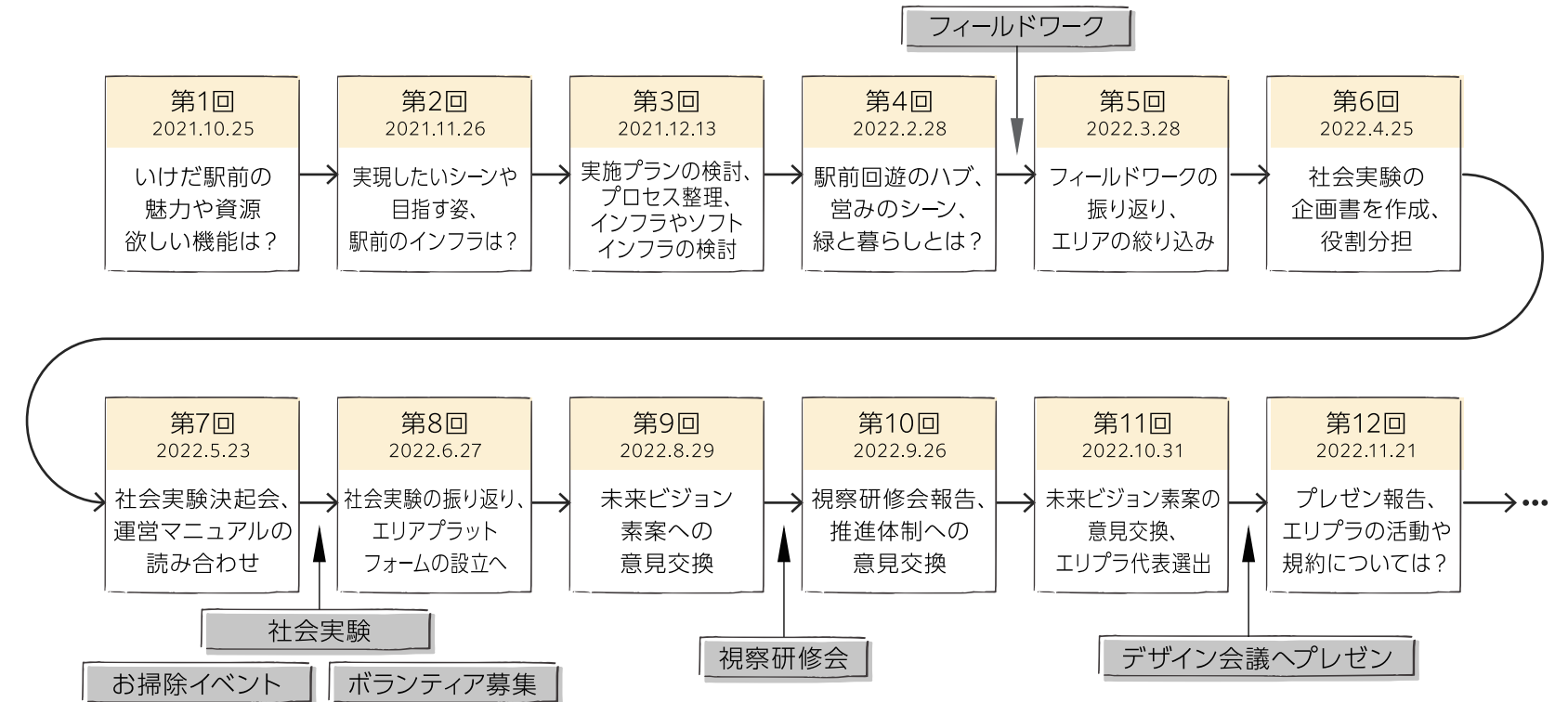


プロジェクトの進め方



プロジェクトミーティング

わたしたちは、いけだ駅前の公共空間のあり方を再検討し、緑あふれる、歩いて楽しめるまちづくりに向けて、多様な主体が連携して、駅前を使って・つなげて・活動するためのコンセプトやルールを話し合うミーティングを重ねてきました。



見えてきた！いけだ駅前の魅力と課題

プロジェクトミーティングで書き出した魅力と課題。美しい里山の自然や歴史文化の中にありながら、何か足りない、使いこなせていない現状が見えてきました。

駅前の地域資源

利便性

- 【施設】駅前に図書館がある
- 【買い物、飲食】駅周辺に商業施設が集まっている
- 【移動、交通】交通の便がいい

観光・賑わい

- 【魅力的な個店、名店】小さくてもいい居酒屋さん大通り以外にもお店がある

景観・憩い

- 【都市の緑、水】緑の見える空間（高層ビルがない）
- 【大自然】山が近い
- 【景色】五月山から見える夜景がキレイ
- 【閑静】ちょっとゆったりした人通り
- 【街並み】レトロなまちなみ（本町通り）

遊び場

- 【公園、広場】公園が多い
- 【運動施設等】ハイキングコース

その他

- 【企業、歴史】過去が保存されている
- 【地域】治安がいい

駅前に欲しい機能

風景の機能

- 【眺望】駅前からランドマーク（五月山）が見えにくい
- 【歩道、道路】道路が狭い

暮らしの機能

- 【買い物】若者向けの店が少ない
- 【営業時間】営業時間が短い
- 【自転車】自転車の通路整備があまりできていない電動自転車が必要

おもてなしの機能

- 【観光案内】回遊バスが欲しい
- 【いけだといえば】魅力をつなぐストーリーは必要アップデートが少ない目新しさがない

活動の機能

- 【滞在空間】涼を取れるところが少ない
- 【アクティビティ拠点】子連れで気軽に食べられるところがファーストフード系しかない

イベント=活性化？

日常の賑わいづくりにつなげるヒント

コラム

Column

目指す「賑わい」って どんなこと

わたしたちの日常には、通勤・通学の道、夕ご飯の買い物途中、将来のことを考えるカフェや本屋、今日のストレスを発散する赤提灯、家族と出掛ける休日のひとときなど、実に多様なシーンが存在します。

また、自慢の野菜を届けたい、周りに褒められる似顔絵で出店を出してみたい、セカンドライフは夫婦で喫茶店をしてみたいなど、新たな日常へのチャレンジも思い浮かべてみたりして。

誰もがどんなタイミングでも、まちなかに居場所を見つけられて、豊かに

過ごすことができれば……。その結果がわたしたちの目指す「賑わい」であると考えています。

使いやすい「器」に していく

通勤前のいつもの道に、日替わりでコーヒースタンドが出ていたら、ちょっと立ち寄ってみたいと思いませんか？桜の季節には、昼の休憩時間にお弁当を持って、あちこちのベンチでお花見ができたらどんなにいい気分でしょうか。

これまで使われていなかった公共空間や商業施設の軒先に、場所貸し屋台が出せたり、ひとやすみできたり

する場所があれば、きっといろんなチャレンジや交流が生まれるはず。

まちなかの色々な場所を、官民で意見交換しながら、使い勝手の良い空間にリノベーションしていきます。

歩いて楽しむまちづくり

そうしてまちなかにたくさんの魅力的な「点」が出来てくると、「あそこも」「ここも」と行ってみたい場所が増えていきます。「点」と「点」がつながって「線」となり、「面」へと広がってエリアの魅力が高まる将来を見据えて、エリア全体が歩いて楽しめるまちなかになるよう工夫していきます。

使い方・楽しみ方を考えたら、 個性的な企画が誕生しました！

駅を降りると、目の前には商業施設が集積していますが、待ち合わせをしたり、腰を下ろしたり、放課後遊びに来たりできるオープンスペースが少ないことに気がつきました。駅前という最高の立地を活かして、小さな子どもを連れて「公園デビュー」ならぬ「駅前デビュー」ができるような、安全で楽しい空間を作りたいと、たくさんの企画が出てきました。

また、いけだ駅前の魅力は市街地に居ながら大きな自然を身近に感じられるところ。駅前、中腹、五月山、それぞれに立地する3つの公園を、いまある雰囲気や設備を活かしながら、プラスアルファの使い方・楽しみ方を企画しました。

さらに、それらを繋いで、一日中駅前を遊び尽くせるよう、広報の方法も考えました。

① 広報・PR

- ・イベントマップ作り
- ・ユニバーサルデザインの検討
- ・回遊の仕組みづくり

② イベント・ハブ

- ・マイフェイバリットプレイスの投票
- ・外壁のマップライブペイント
- ・スマホ充電スポット
- ・シェアサイクルポート
- ・クイズラリー（ツアー）

③ セセラぎの駅前

- ・芝生広場
- ・子ども遊び
- ・図書館イベント
- ・てるてる広場との連携

事務局側での検討&整備

- ・歩車分離
- ・駐輪場移設
- ・座具設置
- ・喫煙所移設や撤去の検討
- ・水景改修
- ・マルシェ側植え込み撤去
- ・マルシェ店舗外向き風のオープンカフェや休憩場所の設置

④ 贅沢ワーケーション

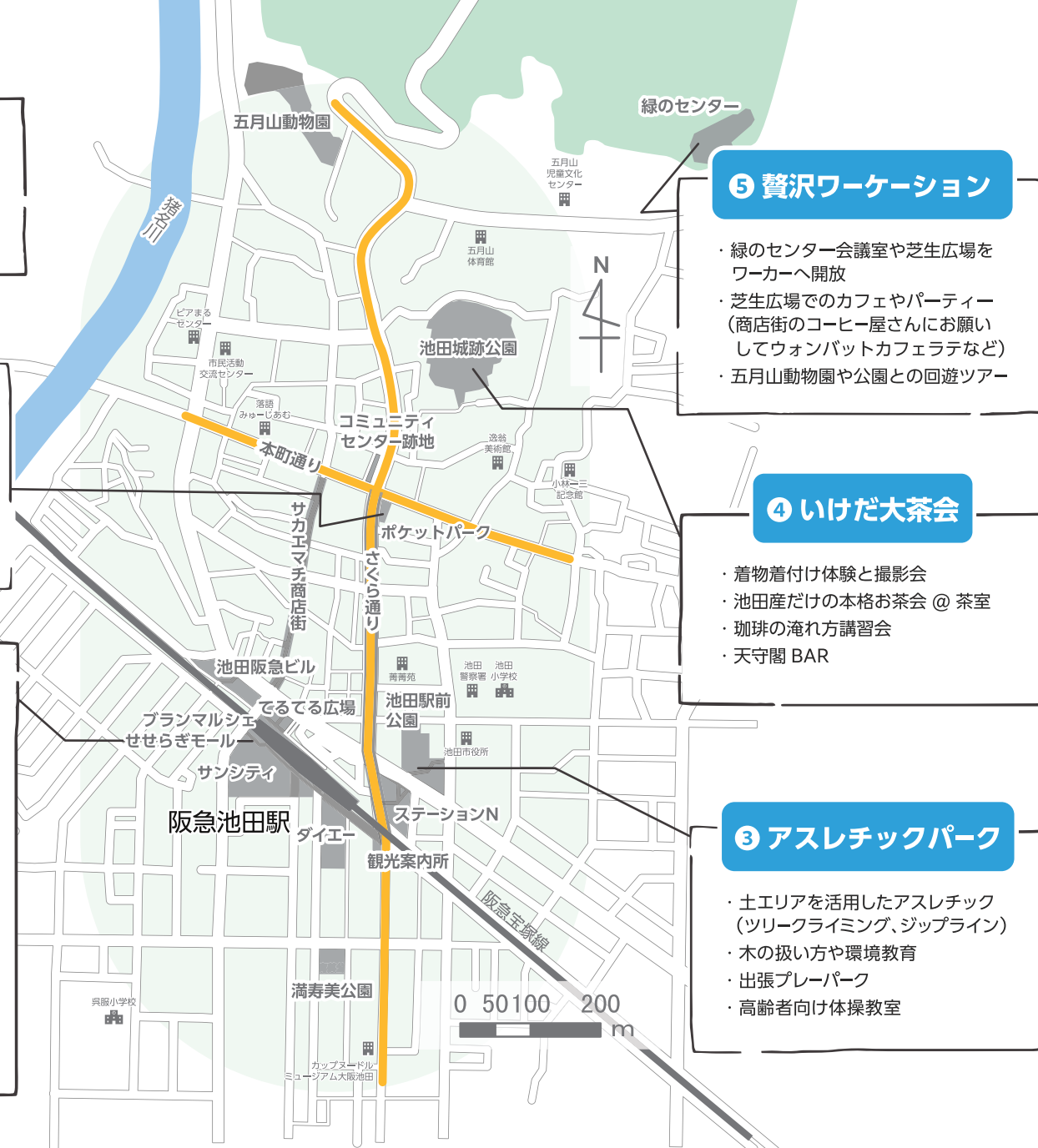
- ・緑のセンター会議室や芝生広場をワーカーへ開放
- ・芝生広場でのカフェやパーティー（商店街のコーヒー屋さんをお願いしてウォンバットカフェラテなど）
- ・五月山動物園や公園との回遊ツアー

⑤ いけだ大茶会

- ・着物着付け体験と撮影会
- ・池田産だけの本格お茶会 @ 茶室
- ・珈琲の淹れ方講習会
- ・天守閣 BAR

⑥ アスレチックパーク

- ・土エリアを活用したアスレチック（ツリークライミング、ジップライン）
- ・木の扱い方や環境教育
- ・出張プレーパーク
- ・高齢者向け体操教室



いけだまちづくり
「未完成」ビジョン

confirm

社会実験で

まちの姿とポテンシヤ

the



ルを確かめてみた

potential

「こんな風に使ってみたい」 「使ってほしい」 みんなで立てた仮説を検証

わたしたちは、アイデアを検証するため、2022年6月に社会実験「おさんぽマルシェ in IKEDA」を開催。約3,000人の方に楽しんでいただきました。例えば、今は歩行者と自転車が縦横無尽に行き交うだけのせせらぎモールが、親水空間で子どもたちが遊び、屋台でマーケットにチャレンジする人が居て、それを見ながらつくる人が居て。

「まさかこんなことできないよな」と諦めていた「心の壁」を取り払うことで、色んな使い方=まちのポテンシャルが具現化されました。



おさんぽマルシェ in IKEDA 2022 当日パンフレット

いけだ駅前を活性化させるための官民連携社会実験として初めてのイベント開催となりましたが、コロナ対策や熱中症対策、自転車の駐輪場所移動や乗り入れの制限など、来場者の方々にもたくさんのご協力をいただきました。プロジェクトメンバーみなさんの熱意が形になった「おさんぽマルシェ」。出展者の方々を始め、関わっていただいた多くの方々、そしてご来場者のみなさま、本当にありがとうございました！

行ったところに
シールを貼ってみる



いつもはイロもない場所に
芝生広場が誕生!

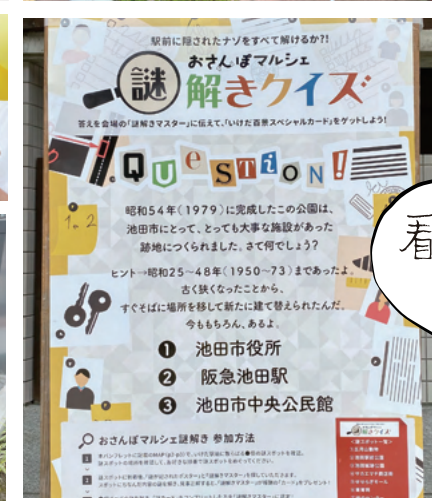
駅前空間を、滞在したくなる空間へリニュー
アル。芝生広場や親水空間、花手水、マル
シェ、フォーラム開催、野菜販売、青空ピアノな
ど、様々な使われ方の可能性を見出しました。

せせらぎモール

てるてる広場



情報発信、クイズ、救急対応など



看板もマルシェスタンドも
みんなで作りました!



ポケットパーク

解きながら池田を矢取るクイズも↑

マップ、パンフレットなどのツールや情報発
信場所を配布設置。まちを知る起点としての謎
解きクイズも実施しました。魅力ある情報発信
と休憩拠点の重要性に気づかされました。



五月山の魅力を色とともに楽しむ

緑のセンター

五月山公園

藍染め体験や出張カフェ、五月山動物園のモルモット観察会など、盛りだくさんの内容で来場者のみなさんをお迎え。植物園での植物ガイドツアーも楽しみました！



非日常の静けさ・賑やかさを楽しむ

池田城跡公園

手入れの行き届いた日本庭園や芝生広場で、着物を着たり、お茶をいただいたり、撮影会を開催したり。いつもとはちょっと違う雰囲気味わいました。



各場所のポテンシャルを生かした賑わい

池田駅前公園

さくら通り

公園では「遊びのプロ」プレイリーダーによるどこでもプレイパーク等が開催。菁菁苑では有志によるマルシェが開催。青空の下でみなさんのびのびと過ごしました。

駅前近辺のお店が有志でコラボ！特別メニューやサービスを各店で実施してくれました。イベント限定メニューや、初めて行くお店との出会いをお楽しみいただきました。

新しい出会いやコラボメニューにワクワク！

サカエマチ商店街

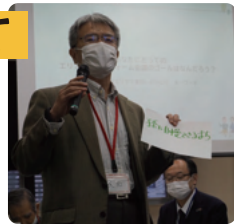
ステーションN



Individual

一つひとつの活動やビジョンが重なりあって はじめて いけだが活性化する

さまざまな思いが重なると、池田らしい未来地図ができあがる。知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれが活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切。



まちづくりは

官と民がそれぞれの役割で動いていくことが大切

行政に任せきりではなく、市民や民間企業の思いやそれぞれの役割を認識して動く、良い結果になる。



駅まち空間を育てると コミュニケーションが生まれる

看板や商品、植物、人、そこにある雰囲気組み合わせり、お互いの距離感を「ちょうどいい」感じられる共存空間があってこそ、コミュニケーションが発生してくる。

社会実験で実感

Policy

最初から大きな未来を描くのではなく、まずは一人ひとりが「自分が楽しい」と思うことを気軽にスモールスタートすることからはじめる

初めてのチャレンジには、失敗はつきもの。失敗することへの不安を考えるよりも、チャレンジを繰り返すことで、より良いものを作り出すPDCAサイクルをうまく回し続けることが大切。



トライアンドエラーを

応援してくれる

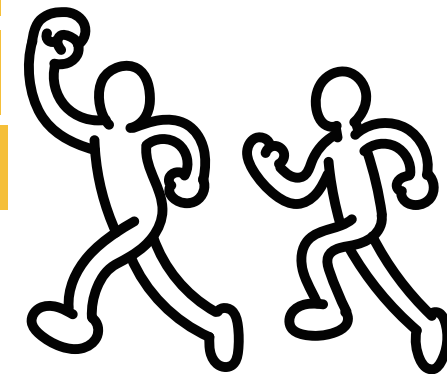
風土と仕組みがあれば

嬉しい

さまざまな試行的なチャレンジを応援し、その中から生まれた新しい経験や知見を共有して、みんなが参考にしながらまた新たに行っていく、という好循環が生まれるといい。

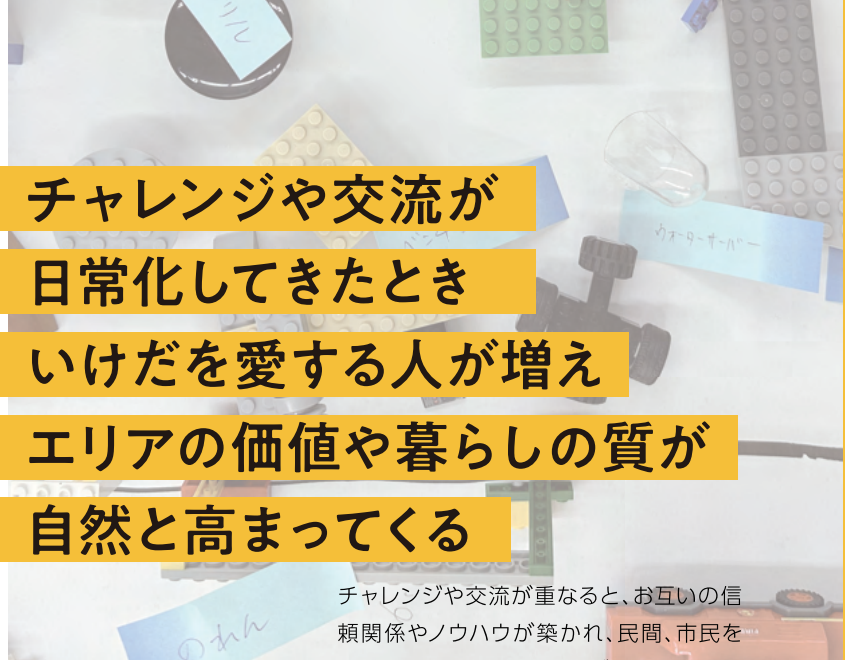
活動の中から 支援する側の 担い手が育つ

活動するなかで、駅まちづくりへの興味と責任感が醸成されていき、自然と担い手の裾野が広がり、地域の中から担い手が育成されていくようになりそう。



チャレンジや交流が 日常化してきたとき いけだを愛する人が増え エリアの価値や暮らしの質が 自然と高まってくる

チャレンジや交流が重なると、お互いの信頼関係やノウハウが築かれ、民間、市民を中心に据えた新たなまちづくりへの機運やシビックプライドが高まっていく。



したメンバーの声

Walkable

歩いて楽しいまちの可能性を 駅前を感じる

多くの人が社会実験に参加し、駅前でみたことがないくらい多くの人が来場した。駅前をウォークアブルで楽しむポテンシャルを感じた。



Support

まちづくりに初めて関わる人や 駅前のつながりを求める人を 伴奏・サポートしてくれる 組織が欲しい

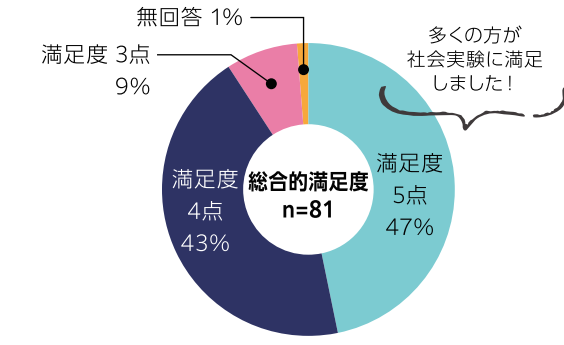
チャレンジを育ててくれたり、繋がりを紹介してくれるような「まちづくりガイド」のような人や組織が常にあると心強い。



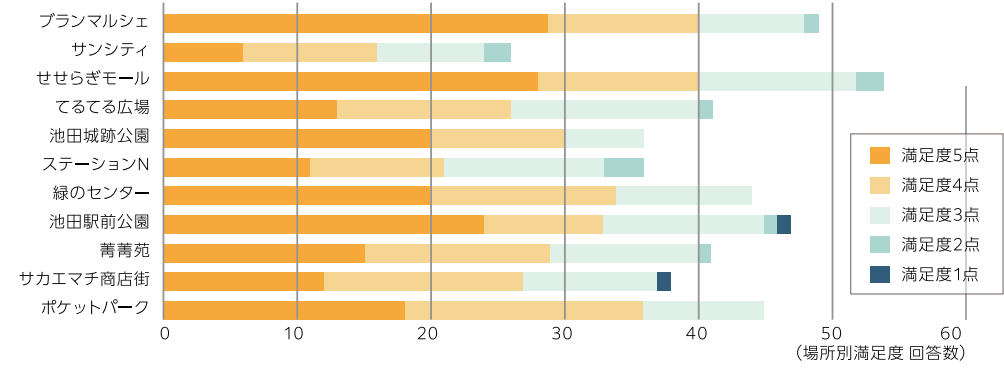
図と数字で見る社会実験



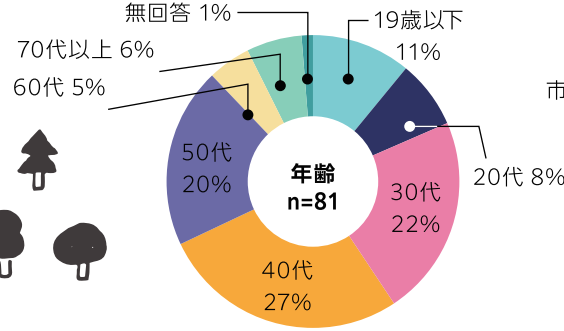
おさんぽマルシェの満足度



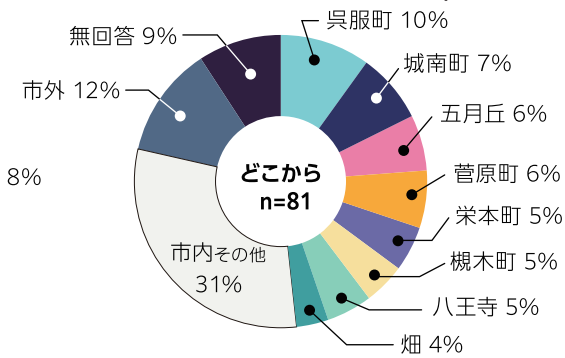
場所ごとの満足度



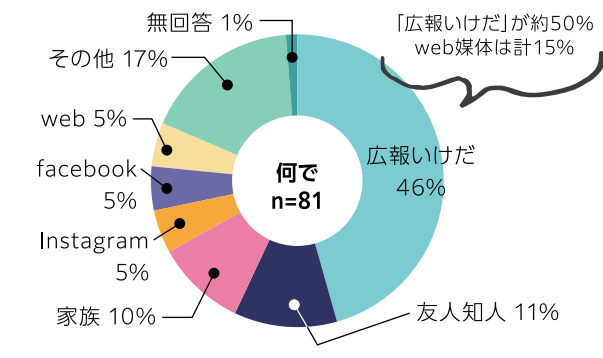
参加者の年齢



どこから来たか



何を見て知ったか



せせらぎモールにおける滞在状況調査結果

利用者属性とアクティビティの多様化が豊かな駅前を作っていく!

調査時間 ※1		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	
天候		曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	時々小雨	
滞留行動	待ち合わせ	1	5					
	飲食(個人)		3		15	10		
	会話(飲食あり・複数)			1	16			
	会話(飲食なし・複数)				2		6	
	会議・打合せ		2				6	
	仕事(PC作業・書類作成)							
	読書							
	喫煙		6					
	睡眠							
	眺める		15	15	12	13	8	11
	スマホを触る							
	子どもを遊ばせる		7	20	31	25		47
ダンス・演奏等(個人)								
ダンス・演奏等(複数)				2		1	10	
滞留人数	1人	15	22	7	5		1	
	2人	6	7	14		11	11	
	3人	4	6	9		12	8	
	4人		2	3		3	5	
	5人以上			2		1		
性別 ※2	男性	13	16	49		50	26	
	女性	20	23	67		55	48	
年齢 ※2	子ども(~12歳)程度	22	16	61		45	28	
	中学生(13~18歳)程度	2	33					
	大学生(19~22歳)程度		3					
	大人(23~60歳)程度	2	28	64		34	45	
	高齢者(61歳~)程度	3	5	5		5	3	
体勢	着席(一時的座具=イス・ベンチ等)	8	16	16		10	44	
	着席(二時的座具=花壇の縁・腰壁等)	3	2	5		28		
	着席(座具以外=地面)			8		1		
	立ち	10	13	29		42	35	
	寝そべる			14				
滞留人数計		146	271	420	59	384	328	

※1 毎時1回の調査結果を示す ※2 調査員の黙示による判断 【調査方法】園田 聡「アプライメイキング」、学芸出版社、2019 参照

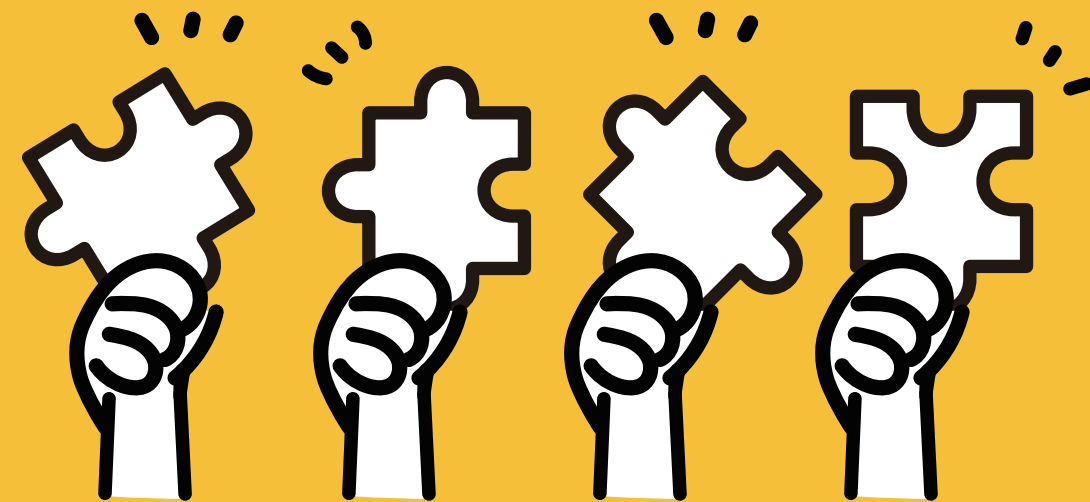
社会実験(おさんぽマルシェ)来場者に、紙とwebでアンケート調査を依頼。総合的な満足度は満足(5点と4点の合計)と答えた方が約90%!市内から来た方が約80%でした。社会実験で大きく空間のあり方を

変えたせせらぎモールにおいては、来街者の滞留行動を調査すると、子どもを遊ばせる、眺めるといった行動が多く、12:00~14:00には飲食(複数、個人)をする人も一定見受けられました。体勢としては、仮設の座具や人工芝の

利用があり、着座、立ち、寝そべる、のいずれもが確認でき、社会実験によってアクティビティの多様化がなされたことが分かりました。

みんなで考えた
将来像は

コレだ!



this is the vision

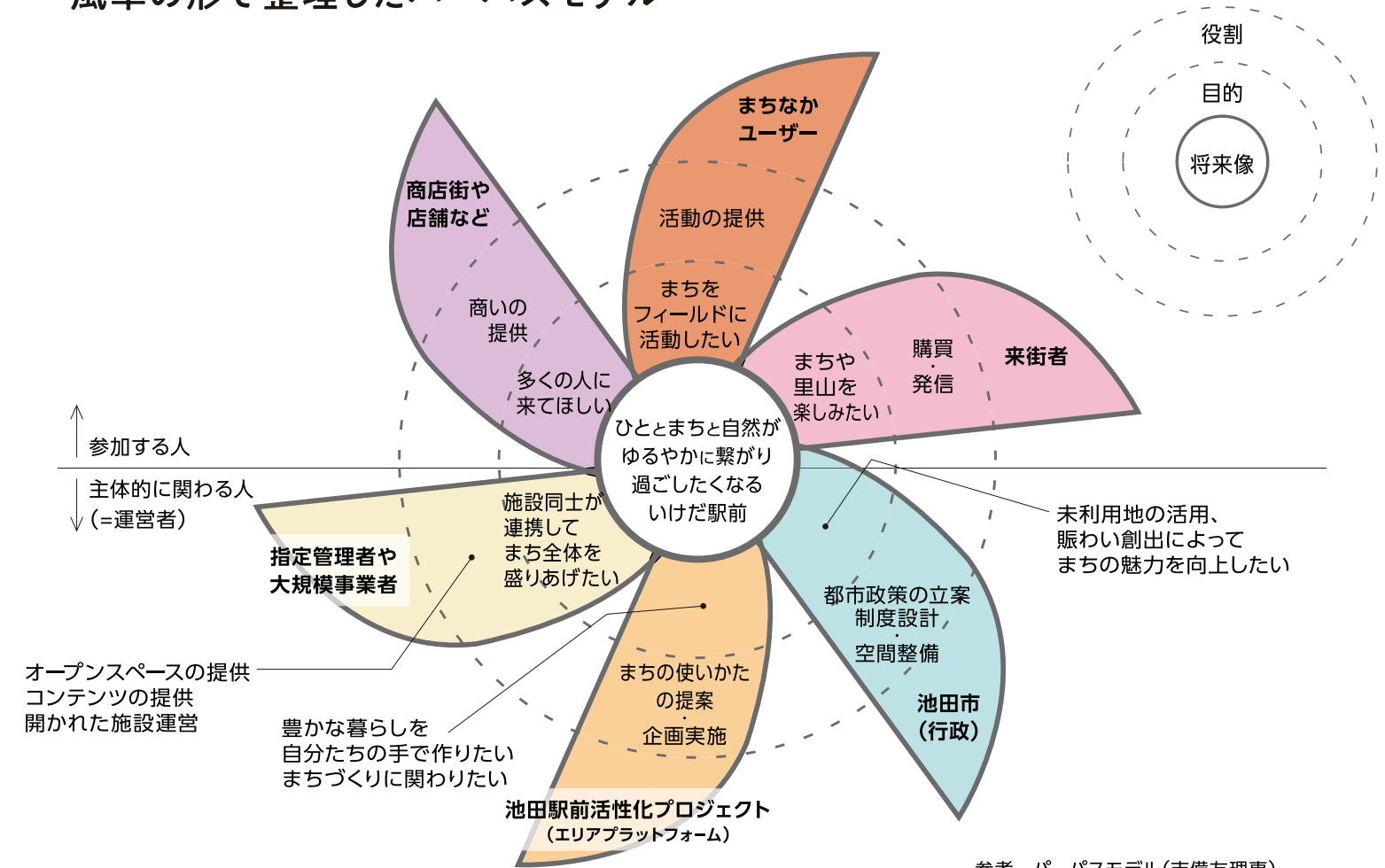
導き出した将来像

『ひととまちと自然がゆるやかに繋がり
過ごしたくなるいけだ駅前』

社会実験を振り返り、いけだ駅前を取り巻く利害関係者の役割、目的、共通目的を風車の形で整理したのが右ページの図です。

主体的に関わる運営側の人とそれに参加する人、様々な主体が関わりあい、それぞれの「だったらいいな」を重ねあわせると、「ひととまちと自然がゆるやかに繋がり、過ごしたくなるいけだ駅前」という将来像が導き出されました。

いけだ駅前を取り巻く関係者の役割・目的・共通目的を風車の形で整理したパーパスモデル



参考 パーパスモデル(吉備友理恵)
<https://zukai.co/research/purposemodel>

将来、いけだ駅前は こんなふうになったらいいな

歩いて楽しい覗いて楽しい
会話が生まれる、安心できる
関係の商業施設

シェアモビリティで
楽々移動できる、
五月山までの急勾配

過ごしたくなる空間へ
滞在空間をリニューアル

情報と休憩の拠点へ
まち歩きハブ・ステーション機能の実装

建物をリノベーションして、
魅力的な個店が点在する路地の中

五月山ブランドをPRして、
一日中遊び尽くせる里山一帯

都市のなかにある緑を知って、つないで
「日常の特等席」を見つける

阪急池田駅を一步出ると、みどりを
感じられる居心地の良い駅前空間が出
迎え、買い物にも休憩にも待ち合わせ
にも、ゆったりと思いつきの時間を過
ごすことができます。

そこからまちへ繰り出すと、商いや
生業の賑わいや活気があり、そこに暮
らす人々の生活感や文化を感じられる
まちなみを、歩いて楽しむことができ
ます。

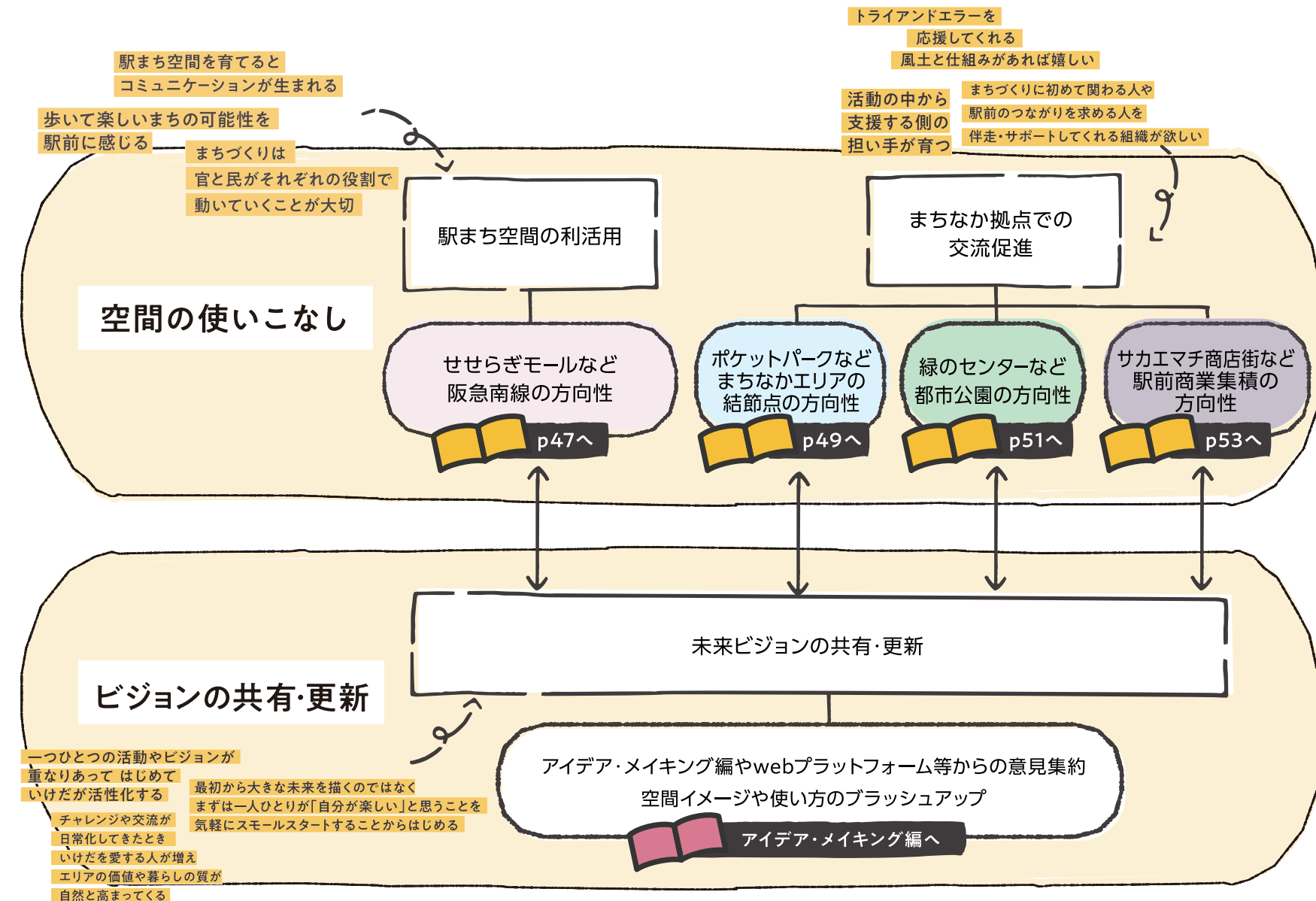
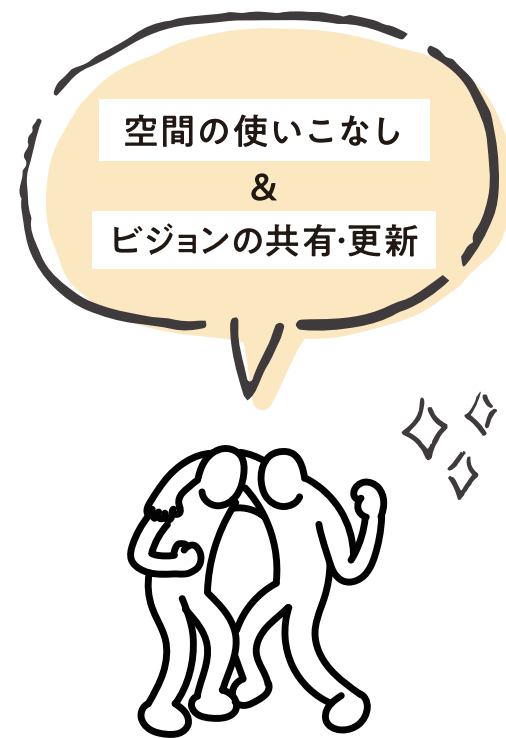
2本のストリーートのハブとなるまちな
か拠点や点在する個性的な店舗、施設
といったお気に入りの場所で過ごした
り、いけだ駅前を包み込む五月山へ少
し足を延ばすことでみどり豊かな自然
のひとつときを楽しむこともできます。

将来像を実現するためのまちづくりの進め方

社会実験を行ったメンバーの声から見いだした将来像を実現するために、「空間の使いこなし」と「ビジョンの更新」を両輪で行っていきます。

「空間の使いこなし」では、第一に、せせらぎモールを中心とした「駅まち空間の利活用」を実現します。またこれと並行して、ポケットパークや公園、商業集積等の「まちなか拠点での交流促進」を進めていきます。

そして、もうひとつの軸となる「ビジョンの共有・更新」では、この冊子のアイデア・メイキング編を運用していくなかで多くの人たちの夢を集め、いけだ駅前の未来ビジョンを日々進化させていきます。



4つの空間の 使いこなしいメージ

『ひとまちと自然がゆるやかに繋がり
過ごしたくなるいけだ駅前』

導き出した将来像を、
駅前の4つの空間に当てはめて
使いこなしのイメージを
具体化していきました。

緑のセンターなど都市公園の方向性

都市のなかにある緑を知って、つないで
「日常の特等席」を見つける



せせらぎモールなど阪急南線の方向性

過ごしたくなる空間へ
滞在空間をリニューアル



ポケットパークなど

まちなかエリアの結節点の方向性

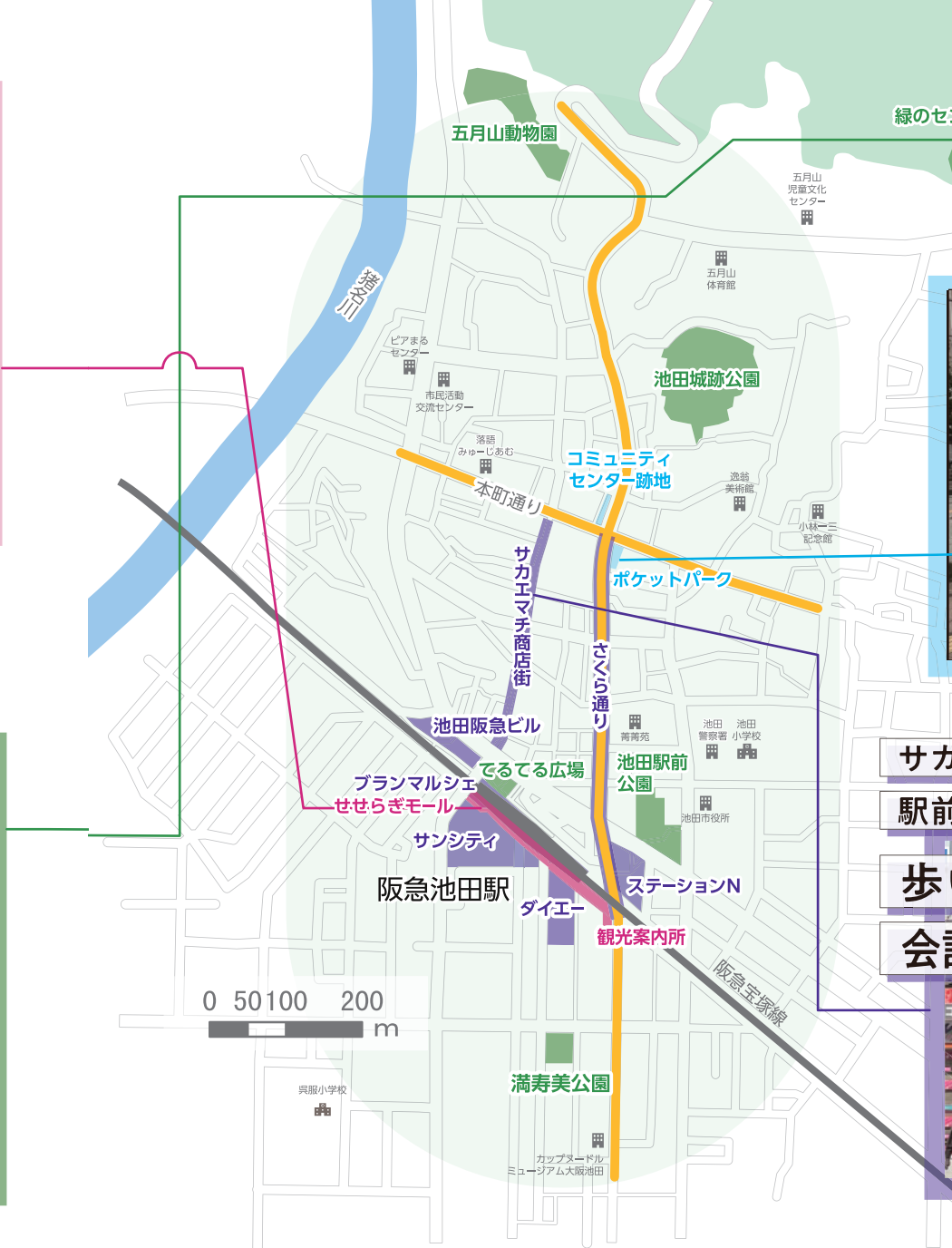
情報と休憩の拠点へ
まち歩きのハブ・ステーション機能の実装



サカエマチ商店街など

駅前商業集積の方向性

歩いて楽しい覗いて楽しい
会話が生まれる、安心できる関係の商業施設



これから、どうなっていく？

せせらぎモールなど阪急南線の方向性

過ごしたくなる空間へ

滞在空間をリニューアル

市民が気軽に
チャレンジショップを
開催できる場がある

駅からの往来の
一時立ち寄り場として
多様な滞在姿
(待ち合わせ、休憩、
放課後の遊び場)
がある

時間・曜日限定で
自転車の乗り入れを
禁止するなど
歩行者空間化を
めざします

お買い物や移動に
疲れたら
オープンカフェや
ベンチで休憩

子どもを安全に
遊ばせられる
「駅前デビュー」向け
空間がある

芝生広場や
座りたくなるベンチ

南側の駅前の
顔として
さらなる利活用の
促進を図ります

そのために、どうしていく？

目的

商業施設(民地)と道路空間とを緩やかに繋ぎ、活気ある使われ方ができる余地を生み出しながらも、ベンチなどの設置や植栽の再配置により滞在しやすい空間を作ります。サンシティ前から高架下、ステーションNまで全体の一体性を高めながら、ウォカブルな空間の拡張整備を行います。

販わいのイメージ

親子の「駅前デビュー」向け空間で子どもが安全に遊べたり、市民が気軽にチャレンジショップを開催できたり。親水空間と店舗軒先が緩やかに繋がった空間では、オープンカフェやベンチでくつろいだりワークしたり。駅前にふさわしい様々なスタイルの販わいが創出されます。

叶えるためのアクション

公共

- 親水空間と店舗の軒先が緩やかにつながる整備
- オープンカフェやベンチなどの設置許可(道路占用許可の特例など)
- 市民等が主役となるマルシェが実施できるように、場所を提供
- 駅前交通ネットワークのあり方の検討

エリアプラットフォーム

- 市民等が主役となるマルシェについて、エリアプラットフォームはマルシェスタンドの貸し出し等の事業及び受付業務を担う
- 公益事業として子どもの遊び場づくりを企画・運営する
- 滞留してもらえる仕掛けの検討

民間

- 商業施設と公共空間の方向性を合わせた一体的な活用等を進める
- 行政と連携して駐輪場のあり方を検討する
- 駅まち空間で実施されるイベントとの連携をめざす

これから、どうなっていく?

ポケットパークなど、まちなかエリアの結節点の方向性

情報と休憩の拠点へ

まち歩きハブ・ステーション機能の実装



そのために、どうしていく?

目的

さくら通りと本町通りの中間地点である立地を活かして、駅前につわる様々なアイデアを試すリビングラボを設置。観光情報の入手や、シェアモビリティのレンタル、休憩等ができる、まち歩きの途中に立ち寄れるハブ・ステーション機能を整備します。

販わいのイメージ

エリアプラットフォームが運営する市民発の実験場(リビングラボ)によって、人が集まり、交流し、いろんなアイデアが実装されてイノベーションが起こっていきます。細河の植木や市内産業のポップアップの場、チャレンジの場としても販わいます。

叶えるためのアクション

公共

- 道路空間の占用
- コミュニティセンター跡地と連携した拠点化(検討)
- リビングラボの拠点整備
- まちあるきモデルの検討(民間駐車場と公共交通機関との連携など)

エリアプラットフォーム

- 公益事業として、地域メディア基地の立場でまちの最新情報の整理や発信
- まち歩きツアーやマルシェ等の企画・運営
- リビングラボ拠点の運営(検討)

民間

- シェアモビリティ(自転車、スロモビリティなど)の導入
- ポップアップなどの場として活用
- 発信したい情報の提供

これから、どうなっていく？

緑のセンターなど都市公園の方向性

都市のなかにある緑を知って、つないで

「日常の特等席」を見つける

夕涼みや夜の散歩といったナイトイベントも

各公園の持ち味を活かして静と動、多様な過ごし方をまち全体で叶える空間づくり

五月山全体で一貫したブランディングを実施

ワーケーションやマイクロツーリズムなど企業や大学等と連携した場の提供

動物園に遊びに来たらついでに五月山エリア全体に足を伸ばしたくなる

気分を変えて公園で仕事をしたり

そのために、どうしていく？

目的

いけだ駅前には五月山動物園・五月山公園、池田城跡公園、緑のセンター、池田駅前公園、満寿美公園など特色ある公園がいくつもあるため、それぞれの雰囲気や特徴を打ち出し、使い方や回遊してもらう仕組みを継続的に進化させながら、各公園を暮らしやコミュニティのハブとして、来街者が足を運ぶきっかけや市民が日常の中で多様な過ごし方を選ぶことができる状態を目指します。

賑わいのイメージ

休日やイベント時に限定した飲食出店や、池田ならではの茶道体験の提供等“ちょっといい日常”にふれる機会が幅広く提供され、企業や大学等と連携したワーケーションやマイクロツーリズムなどの提供がなされることで、様々なエリアで「静と動」両方の過ごし方が叶い、充実した滞在空間が実現します。

叶えるためのアクション

公共

- 特色のある公園の整備
- 周辺施設へ人流を促す仕掛けの検討(パーソナルモビリティほか)
- 五月山にある多様な施設の周遊を高める仕掛けの検討
- 民間事業者と協力した利活用手法の検討

エリアプラットフォーム

- 多様なアクティビティを誘発する仕掛けの検討
- 使われ方のモニタリング
- イベントの同時開催等、回遊の相乗効果を狙った調整
- 実施されるイベントの広報強化

民間

- 柔軟な公園運営の提案
- 地域主体の公園運営の支援
- いけだ駅前で開催されるイベントと相乗効果を狙ったイベントの開催
- イベント出店による店舗の広報

これから、どうなっていく?

サカエマチ商店街など駅前商業集積の方向性

歩いて楽しい覗いて楽しい

会話が生まれる、安心できる関係の商業集積へ

空き家・空き店舗情報が
すぐ手に入り、誰もが
チャレンジしやすい雰囲気と
支援制度がある

上手く新旧が
融合し
新陳代謝が
生まれている

点在する
個性的で魅力的な個店を
繋いで歩くと
自分だけの
お気に入りが見つかる

大型イベントは
個店や施設と
協働して同時多発的に
実施

ひとつひとつの
アクションが
大きな輪に

商業施設の開発や
リニューアルに関して、
エリア全体で方向性や
足並みを揃えて検討し
、投資が促されている

そのために、どうしていく?

目的

店舗とお客さんのあいだや、新旧の店舗のあいだで会話が生まれやすい商店街にすること、公共空間と商業施設とが協働して「駅前空間」を育てていくことを目標とします。

販わいのイメージ

サカエマチ商店街では、空き店舗をチャレンジショップとして貸し出すなどして新旧が上手く融合し、新陳代謝が生まれています。さらに、顔馴染みの人に会ってつい井戸端会議が始まってしまうような、歩きやすく・立ち止まりやすい軒先空間への工夫がなされています。駅前の商業施設では、ショッピングはもちろん、毎日立ち寄って楽しく、待ち合わせ・出先でのPCリモートワーク・家族のお出掛けなどの様々なシーンに寄り添えるよう、官民の敷地を繋いだ空間づくりをします。

叶えるためのアクション

公共

- さくら通りは、五月山へとつながる歩きやすい、休憩できる道路空間・景観の形成
- 誰もがチャレンジしやすくなる支援制度の検討
- あちこちに立ち寄り、立ち止まりやすい座具や空間の整備

エリアプラットフォーム

- 空き家・空き店舗情報がすぐ手に入り、誰もがチャレンジしやすい雰囲気作り
- 事業者や管理者等、多様なステークホルダーとの連携調整
- 駅前と商店街をつなぐイベント等の開催

民間

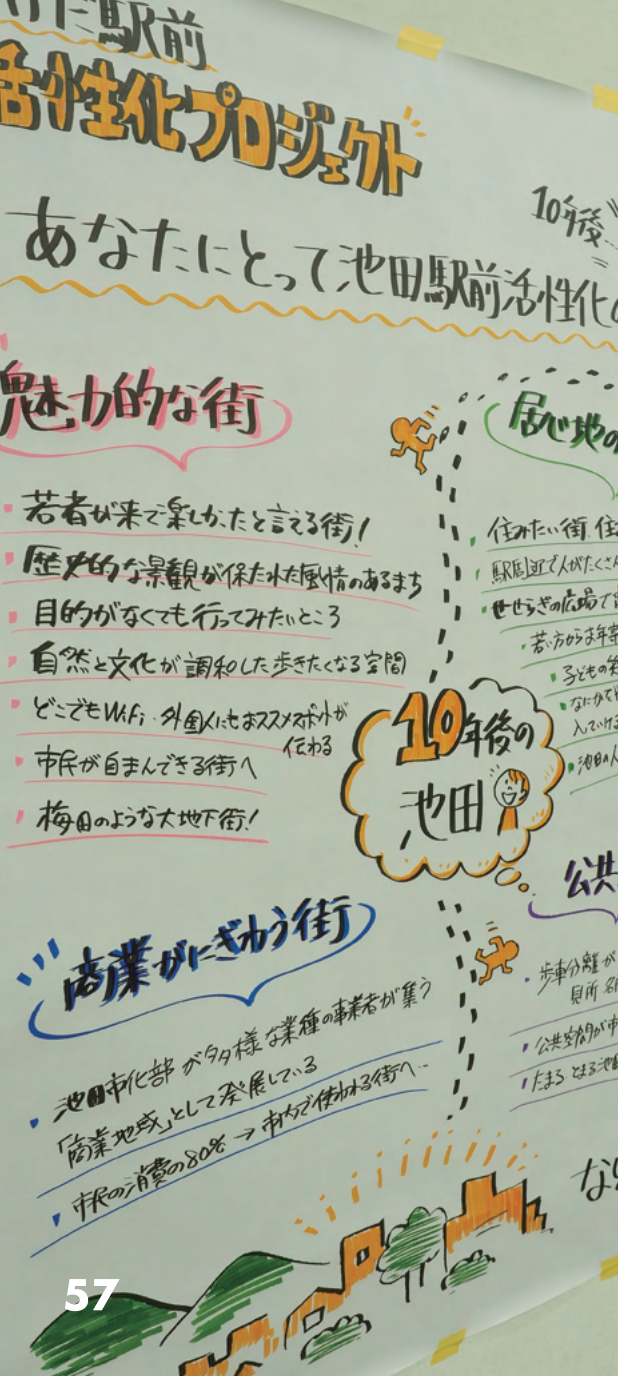
- 個店や施設と協働した、同時多発的な大型イベントの実施
- ひとつひとつのアクションが大きな輪になるような機運の形成

それって、どうやって

実現させるの？



how to realize?



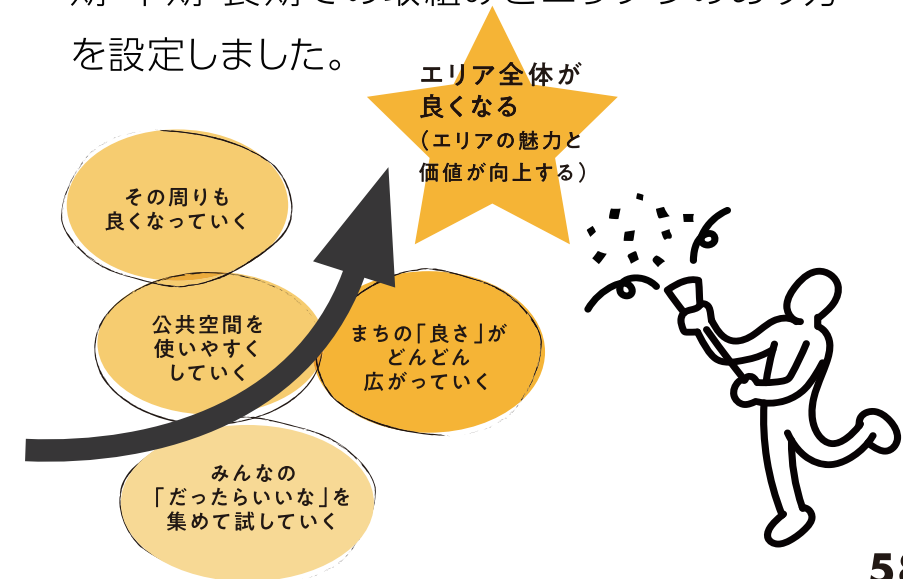
いけだ駅前がもっと魅力的になるロードマップ

Roadmap

	短期(~3年) 2023~2025年 暫定活用・実証期	中期(5~10年程度) 2026~2035年 マネジメント開始期	長期(20年先) 2036~2042年 マネジメント運用期
駅まち空間の 利活用	せせらぎモール再整備 駅前空間の利活用 社会実験等	駅まち空間利活用の促進 駅前商業施設のリニューアル等	空間の使いこなしとマネジメント 駅前の再々開発等
まちなか拠点での 交流促進	ポケットパーク前での仮拠点づくり	交流拠点整備等 空き家・空き店舗の活用等	まちづくりの担い手確保
未来ビジョンの 共有・更新	webプラットフォームの開設 個々のビジョンを収集	いけだ駅前未来ビジョンのバージョンアップ	未来ビジョンの更新、スパイラルアップ
エリプラの あり方	ステークホルダーの ゆるやかな集まり	自立・自走した組織 (エリプラ内に都市再生推進法人を組成等)	ビジョンに基づいたエリアマネジメント 主体として活動

エリアの魅力や価値が向上するというプロジェクトの成果は、長期的な取り組みによってもたらされますが、仮説を実行に移す際には成果が見えやすい取り組みからまずは実行に移していくことが重要です。

いけだ駅前の将来像を実現するため、暫定活用・実証期の結果を検証しながら、マネジメント期へ移行していくロードマップとして、短期・中期・長期での取組みとエリプラのあり方を設定しました。



まちを測る指標・定量目標

いけだ駅前の将来像の実現性を評価するための指標・定量目標を以下のとおり決めました。「空間の使いこなし」や、「エリプラの活動等」の状況を継続的にモニタリング・共有しつつ、ビジョンやエリプラの体制の改善等を行いながら、いけだ駅前の将来像を実現していき、エリア価値の向上や、ひいては市全体の居住満足度の向上に繋げていきます。

空間の使いこなし	項目	めざすところ	指標の測り方	定量目標
	どんな人が、どこで、どんな活動をしているか	いけだ駅前に多様な人が集まってくる	・広場、ストリートの滞在者・通行者の属性情報、アクティビティをカウント(現地調査)	R5年⇒R14年の評価点3割増加
集まった人がどのように感じているか	いけだ駅前に居心地の良い場所を増やす	・広場、ストリートの居心地の良さについての市民アンケート調査(4段階評価)(国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る」)	・せせらぎモール ・さくら通り ・サカエマチ商店街 等	

エリプラの活動等	項目	めざすところ	指標の測り方	定量目標
	エリプラに多様な人材が集まってきているか	エリプラを自立・自走した組織にする	エリプラ参加者をカウントする(うち、コアメンバーをカウント)	現況値 R4年 70人(6人) 目標値 R9年 100人(10人)
	まちなかの空間を使いこなししている人が増えているか	まちなかの空間を使いこなす人がたくさんいて、いけだ駅前のエリア価値が高まる	エリプラに登録された「まちなかユーザー※」の人数をカウントする	現況値 ※※ 目標値 R9年 20人
色んなアイデアが集まってきているか		未来ビジョン(アイデア・メイキング編)で共有したアイデア数をカウントする	現況値 ※※ 目標値 R9年 20件	

「まちなかの居心地の良さを測る指標」とは ※p66-67、アイデアメイキング編を参照 ※※現況値はR5年に測定する
「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成への取組みを支援するため、居心地の良い空間が形成されているかの把握、改善点を発掘するツールとして、国土交通省が作成した指標 https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_tk_000081.html

公共空間は「みんなのもの」であり「わたしのもの」でもある



参加しやすい「きっかけ」を用意する

公共空間はみんなのものです。みんなのものということは、独り占めしてはいけませんが、勝手に使ってはいけないということではありません。自由使用の範囲でできることは、思っているよりたくさんあるものです。

使いこなしの上級者でない方のために、使うルールを分かりやすく公開しておいたり、「こんなことやってみたいんだけど」と気軽に相談できる窓口を設けておけば、どうでしょう。今よりたくさんの方がトライアンドエラーを重ねながら、使いこなしの上級者へとなっ

ていくに違いありません。

わたしたちエリアプラットフォームは、多くの方が参加しやすいきっかけづくりを行っています。「まちを使ってみよう」と思う人、「チャレンジしてみたい」と思う人がたくさん増えることを願っています。

居心地のよい「日常」のために

大勢でわいわいするのが好きな人もいれば、静かにひとりの時間を過ごすのが好きな人もいます。誰もが居心地の良さを感ぜられるよう、多様な使い方ができる空間を作ることが重要

です。いけだ駅前はその暮らし、働く人全員の「日常」の舞台です。居心地の悪い思いをする人がいないよう、配慮していきます。

Column

推進体制

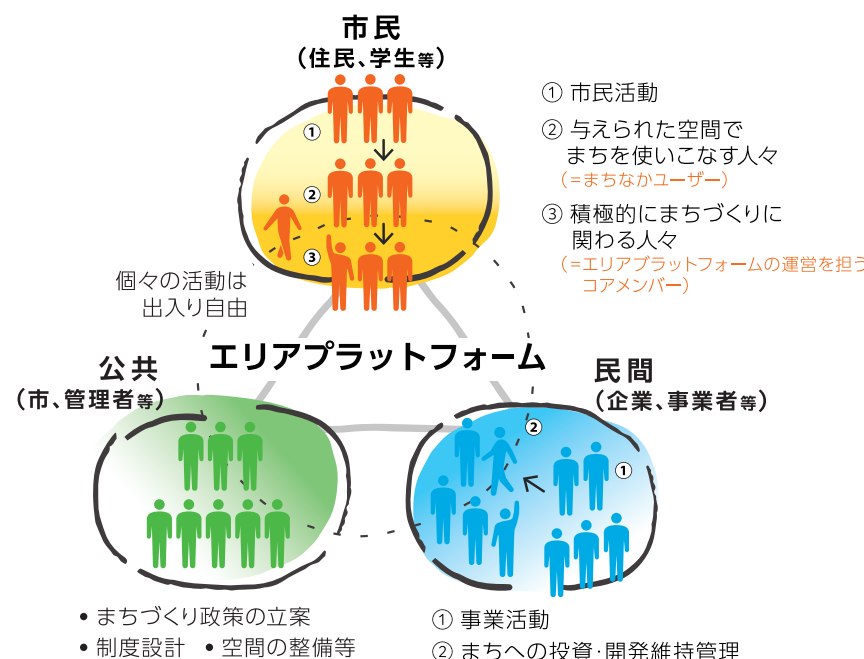
エリアプラットフォームとは

市民や学生、地元の企業や事業者、市職員や公共施設の指定管理者等の有志が緩やかに集まり、まちの将来像を描き、その実現に向けた取組みについて協議・調整を行うための場です。

いけだ駅前では、まちの回遊性向上や賑わい創出の取組みを面的に広げ、エリア価値を高めていくこと、その担い手となる民間事業者や次世代リーダーを発掘・育成していくため設立しました。

エリアプラットフォームがあることの主な効果

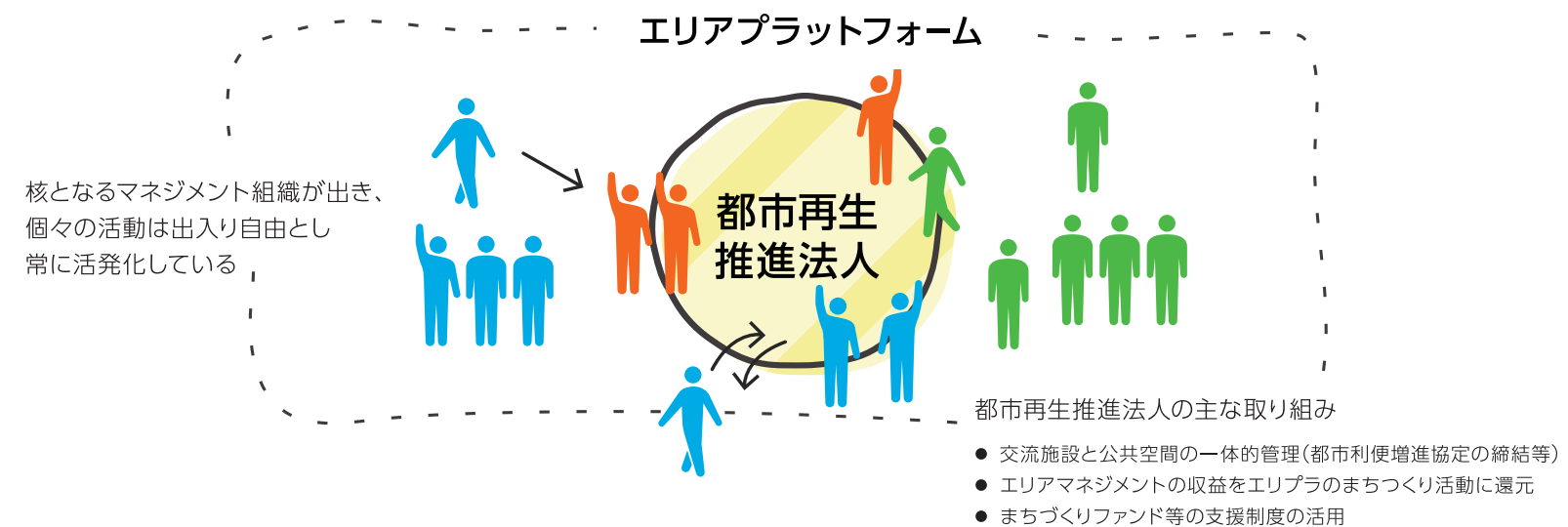
<p>担い手の拡大</p> <p>活動に取り組む担い手が増えることで、多様なプロジェクトが生まれ、まちの変化が加速します。人材を発掘・育成していくことが重要です。</p>	<p>にぎわいの創出</p> <p>居心地のよい空間の整備やイベントの開催など、人々が集い、交流できるような取組により、賑わいを創出し、まちの魅力づくりに繋がります。</p>
<p>手続きのワンストップ化</p> <p>まちへのアクションを実現するには、許認可等の行政手続きや周辺住民への事前説明など、様々な調整が求められます。多様な主体が関わることで円滑に協議・調整が進みます。</p>	<p>住民の意識向上とネットワークの形成</p> <p>住民が抱くまちへの愛着や繋がりは、まちの魅力において重要な要素であり、活動が生まれる原動力です。また取組の過程で関係者のネットワークが形成されます。</p>



都市再生推進法人とは

市がまちづくりの担い手として都市再生特別措置法により指定する法人で、都市再生整備計画の提案や同計画に基づく協定制度、占用許可の特例等を活用しながら、まちのエリアマネジメント(公共空間の管理、情報発信、イベントの実施等)を展開していくことができます。

エリアマネジメント活動を通じて得られた収益をエリアプラットフォームのまちづくり活動に還元するなど、ビジョンの実現やエリアプラットフォームを自立・自走した組織にしていくための中核的な存在になることが期待されます。



行政内の横連携

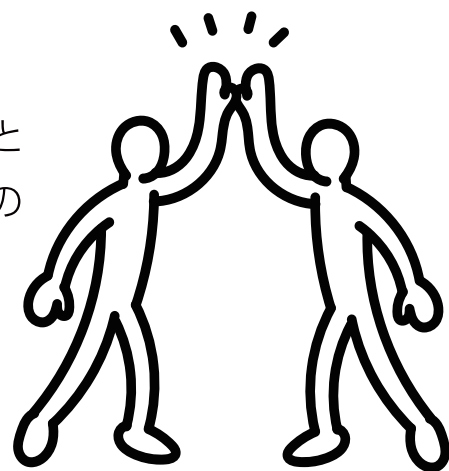
いけだまちなか活性化デザイン会議とは

いけだエリアプラットフォームと市では、いけだ駅前のまちの回遊性向上や賑わい創出の取組みを面的に広げて継続的なまちづくりへと展開していくため、「いけだまちなか活性化デザイン会議」を設置しています。

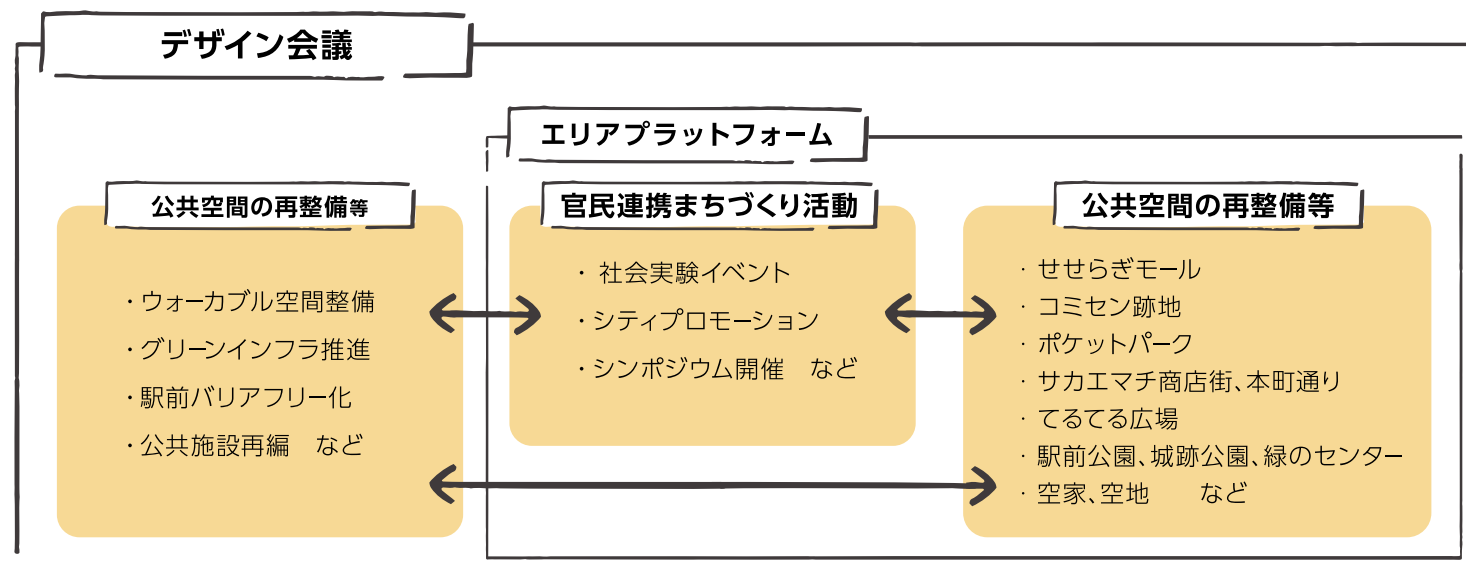
デザイン会議では、いけだエリアプラットフォーム、市長、有識者とともに、未来ビジョンの策定・改定やビジョンの実現に向けた企画立案、事業実施などに関する協議検討を行っています。

いけだまちなか活性化デザイン会議の庁内体制

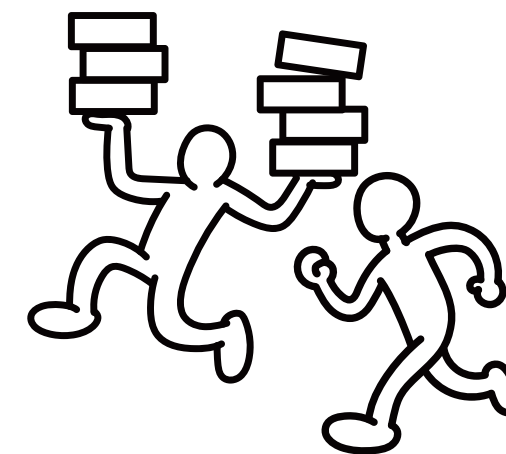
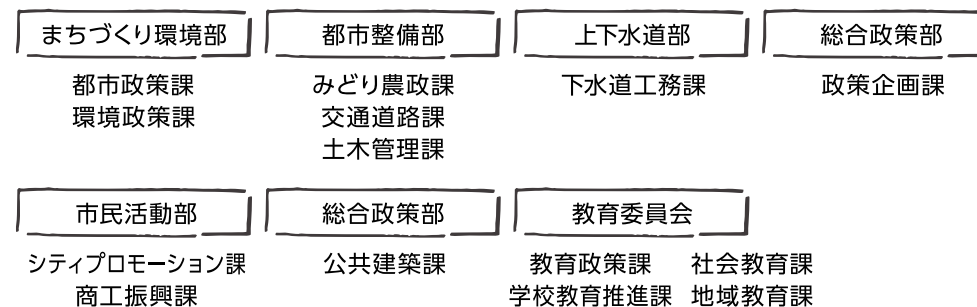
エリアプラットフォームには行政の各部課が参画しており、他の参加者と共にコーディネーターとしての役割を担っています。エリアプラットフォームの一員として運営事務局と連携しながら、事業の魅力化を図っていきます。その際に、他部課に所属するメンバーとの連携を図り、スムーズな事業推進を行います。また、個々の職員が自らの知見を活かして活動を行っていきます。



いけだまちなか活性化デザイン会議の庁内体制図



いけだまちなか活性化デザイン会議に参加する庁内部署



活性化を進めていくための 基本的な考え方



まちのリニューアルは 運営・マネジメントと 表裏一体

これまで公共空間は主に行政主導で設計・整備し、直営管理や民間活力を導入した指定管理等が行われてきました。しかし、出来上がった空間をどう使うか考えてルールを決め、運用する主体を組織し、彼らと共に整備の構想を考えていくことで、将来に渡ってスムーズに「あるべき姿」を実現していくことができるのです。使いやすい場所貸しのルールは何か、利用者への声掛けや清掃活動はどうか、といったことを想定した上で、それを実現し

やすい空間をデザインし、整備していくことが重要です。

まちのリニューアルに 重要なこと

阪急池田駅を中心とした「いけだ駅前」は、商業施設や商店・公園・ストリートから、五月山の里山までを繋ぐ「歩いて楽しいまち」にリニューアルするため、まちなか機能の再整備を順次進めていきます。それは、暮らし働く人が日常を豊かに過ごし、訪れた人が一日中多様なアクティビティを享受できるよう、空間をリ・デザインすることです。そのために欠かせないのが、まちを

使う側の人意見を取り入れていくこと（「いけだ駅前未来ビジョン」の運用がそれに当たります）、民間事業者との連動し足並みを揃えて開発を行っていくこと、そして出来上がった「いけだ駅前」をどうマネジメントしていくかの検討と並行して整備を行っていくことです。

民間事業者による 開発も進む

いけだ駅前では民間事業者の動きも進んでいます。せせらぎモールに面し、駅2階からも連絡橋で直結しているサンシティ池田内に2019

「IKEDIA」(合同会社MSH)がオープンし、池田市立図書館がテナントとして入りました。駅直結の便利な場所に移った図書館は、開館時間も延長され、いつでも気軽に入れる施設に生まれ変わりました。地元だけでなく域外からの集客を目標とし、吸引力のあるライフスタイル系のリーシングを強めています。また、現在進行形で、阪急池田駅に直結する商業施設「阪急池田ブランマルシェ」(阪急電鉄株式会社、阪急阪神不動産株式会社、阪急阪神ビルマネジメント株式会社)が、開業以来初の大規模リニューアルとして、店舗配置を一新し、せせらぎモール側に向けた開放感のある店舗ファサードとする等、池田の玄関口としてふさわしい、まちにひらかれた施設として2023年秋のグランドオープンを目指しています。さらに、サカエマチ商店街の入口と向かい合う「池田阪急ビル」(阪急電鉄株式会社)は現在取り壊しされ、

新たな複合施設が誕生する予定です。このように、例えばせせらぎモールのリニューアルは、ブランマルシェがモール側に開き、一体的な空間づくりが可能になれば、整備におけるインパクトは大きなものとなります。あるべき姿を官民で共有し、開発の足並みを揃えていくことは、まちのリニューアルにおいて大変重要なことです。

これからの 都市政策と事業

そこで、この未来ビジョンを読んだ人が今後の池田市の動きがわかるようロードマップを示しました。まずは、わたしたち「いけだエリアプラットフォーム」を立ち上げ、エリアマネジメントの体制を作り、あるべき姿を議論しながらこの「いけだ駅前未来ビジョン」を策定することから始めました。次いで、大きくふたつの動きとして

「まちなかウォークアブルの推進」と「グリーンインフラの活用」とがあります。これはどちらも国土交通省の施策であり、「まちなかウォークアブルの推進」は、車中心から人中心の空間へと転換を図り、歩いて移動できるまちなかの滞在快適性を向上させる取組のことで、居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを推進するものです。「グリーンインフラの活用」は、緑や里山などの自然環境が有する多様な機能を活用して、持続可能で魅力ある地域づくりを進める取組のことで、積極的に緑や水を活かしたまちなか空間を形成するものです。これらふたつの掛け合わせにより、具体的には満寿美公園、五月山緑地、せせらぎモール、ポケットパーク、コミュニティセンター跡地の整備(または再整備)及び運営・マネジメントが順次行われていきます。

「まちなかユーザー」に

あなたもなってみませんか？



「まちを良くしたい!」「まちで何かやってみたい!」

まちに賑わいを作り自分も楽しむ人=まちなかユーザー

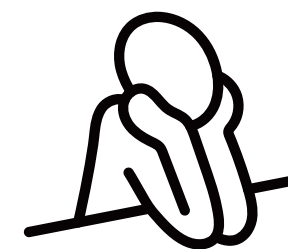
まちなかの空間を使いこなして賑わいを作る人を、「まちなかユーザー」と呼んでみましょう。

いけだ駅前には、すでに市民活動を行っている人達や、まちの活性化に向けて活動している事業者の方々がたくさんいます。

自分でチャレンジしてみたい人も、まちなかに展開されているチャレンジに参加してみる人も、全員がユーザーです。あなたが使えば、そこは「スペース(空間)」ではなく「プレイス(居場所)」になっていきます。

あなたの中にある様々なアイデアを
いけだ駅前を実現してみませんか？

考えてみよう!



池田駅前が
あなたのお気に入り空間になるためには
どんなモノ・コトがあって欲しい?

池田駅前で
自分らしく活動、チャレンジするなら
どこで何をやってみたい?

アイデア・メイキング編へ

未来ビジョン作成、エリアプラットフォームに関わった人たち(属性)

【企業・団体等】

観光案内施設運営者、NPO法人、まちづくり活動団体、公園指定管理者、商店会、商店街振興組合、商業事業者、商工会議所、金融機関、鉄道会社、不動産開発事業者、ビルオーナー、ビル運営管理会社、通信メーカー、自動車メーカー、ベンチャー企業、観光施設管理者、不動産会社、学生団体、池田市

【個人参加(市民等)】

主婦、会社員、物販店主、大学教員、大学生、会社経営、アルバイト、市職員 など多数

